

研究主題

「自分の考えを持ち、豊かに表現する子どもの育成」
～ 国語科学習を中心として～

新学習指導要領では四つの基本方針が述べられている。その2番目に「自ら学び、自ら考える力を育成すること」がある。考える力を育成するためには、読む・書く・話す・聞く能力を高める事が必要であり、このことが全教科の学力向上につながる。3番目には「基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実すること」がある。本校は佐賀県北部の農漁村にあり転出入児童もほとんどなく、やや自己表現力に欠ける面がある。よって、上記のことを受けて本校では、平成17年度より「学力向上拠点形成事業」の委嘱を契機に、「考える力の育成」「個性の伸長」、そして「表現力の向上」をめざして、国語科・社会科・算数科・理科において指導方法の工夫改善を行ってきた。これまでの研究により、話し合い活動において、話型を参考にして発表する児童が増え、ほとんどの学年において、形成テストの国語の知識・理解や算数の表現・処理の到達度が全国平均を上回る結果となった。また、思考・判断力の力が少しずつ上がってきている。しかしながら、学習課題を自分自身で解決する児童は多いとはいえ、進んで発表する児童は高学年になるにつれて少なくなり、考える力や表現力が十分身につくについて学力が向上したとは言い難い。そこで、今年度は、国語科における学習を主としながらも、他教科でも国語の力が活用できるように指導していく。本主題の「自分の考えを持つ」とは、子どもが一人ひとりが発想した予想や仮説、構想を持つことに加え気づき・感想を持つことである。また、「豊かに表現する」とは、学習の結果を話型に準じて説明したり、絵や図にかき表したりすることで学習を深めること、達成感を味わうこと、そして更なる学習意欲を喚起するところを指導方針とめざす。本主題を

研究方法

ア

教科学習

国語科において、児童の実態を調査し、児童の理解や習熟の程度に応じた問題解決学習型による学習過程を実践する。

他教科においても読む・話す活動を取り入れて考える力や表現力の向上をめざす。児童の活動に対して、身近で効果的な課題提示をしたり、K・R情報を出したりすることで、意欲を高め、よりよい活動を促す。

既習事項をもとにした自力解決を図るための作業活動を取り入れる。話し合い活動においては、拡大模倣的手法を使って自分の考えを持たせたり、考えを

広

各教科において単元のまとめとなるような多様な表現活動を行うことによって、考えを深めたり、達成感を味わわせたりする。年間7回の研究授業を公開する。

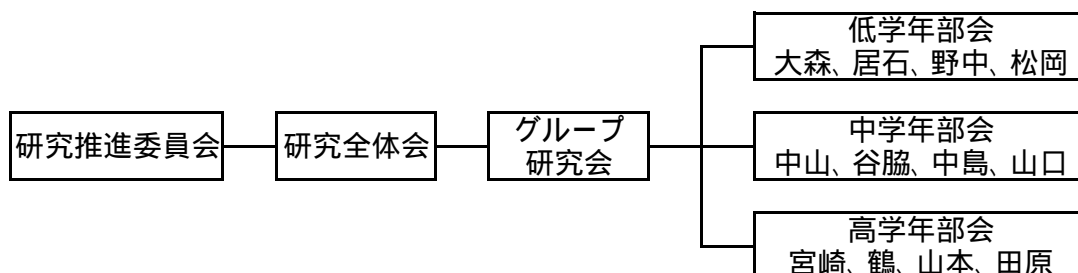
イ

教科外学習

「スピーチタイム」「ぐんぐんタイム」、読書活動など教科外の時間を活用することで、表現力の向上を図る。併せて、個性を生かす基礎学力の定着をめざす。「がんばり表」や人権教育の推進などにより、児童の生活意識や人権意識の向上を図り、児童の学習の支えとなるように環境を整える

育友会での集まりや学校通信・学級通信等で保護者や地域住民に児童の「がんばり」を知らせるとともに家庭学習のあり方や規律ある生活について保護者に協力を依頼する

研究組織



研究推進委員会

校長、教頭、低学年部会、中学年部会、高学年部会、算数主任、IT少人数担当
原則として月1回会合を開き、研究が円滑に行えるようにする。

研究全体会

各月の第一・二・三水曜日を定例とし、共通理解、グループ間の意見交換の場とする。

グループ研究会

各部会に分かれて研究を深める。

研究年間計画

期日	取り組みの概要	
4月	2日	研究推進委員会
	3日	校内研究(年間計画、スピーチタイム、テーマ設定、資料作り)
	16日	" 全国学習状況調査22日
5月	12日	研究推進委員会
	14日	校内研究
6月	4日	校内研究 研究授業2年(居石、野中)4年(中山)
	未定	
7月	2日	校内研究
	4日	漢字コンクール
8月		校内研究
9月	10日	校内研究
	17日	校内研究
10月	1日	校内研究
	8日	校内研究 研究授業1年(大森) あおぞら(松岡) 6年(靄)
	15日	校内研究
	22日	校内研究
11月	5日	校内研究
	12日	校内研究
12月	3日	校内研究 県学習状況調査
	5日	校内研究
1月	14日	校内研究 研究授業3年(谷脇)5年(宮崎)
	27日	CRT検査、アンケート実施(国語)
2月	16日	研究推進委員会
	18日	校内研究
	21日	計算コンクール
3月	6日	漢字コンクール
	18日	校内研究
	25日	校内研究

26日	校内研究
27日	校内研究